

# あごら 札幌

No. 249

あごら札幌 連絡先 細田  
(011) 644-2927今月通信担当  
柏原

## 《 今月の内容 》

- |                             |                           |
|-----------------------------|---------------------------|
| ・本と暮らす「深爪」… 1.2             | ・年金制度をどうしたいか<br>あな? … 6.7 |
| ・Tマステ パートV … 3              | ・INFORMATION … 8          |
| ・ひとりNGO山田征さん<br>道内ツアー … 4.5 |                           |

2003.10.15. 発行

通信購読料 1200円 (年間)

## 🐞 本と暮らす 🐞

### (25) 「深 爪」

中山可穂 著

朝日新聞社 刊

「ねえ、なんか面白い本、ない？」

このセリフを、夜寝る前、つれあいに何度言ったことでしょうか！ この頃の私はすっかり墮落してしまったというか、エネルギー不足というか、街の本屋さんをうろついて、「私はここにいるわよ」「買って買って！」と私にメッセージを発信してくる本たちをかき集める作業をしなくなりました。その反動がくるのか、ほんとに数ヶ月ぶりに街の本屋さんに出かけると、自分でもあきれかえるくらいに本を買い込んでしまうのですが……。この頃、自分自身で本を買うことにとっても消極的になっているのに気がついています。

ひとつには、物理的なスペースの問題がいよいよ深刻になってきて、読んだ本を「これは保存用」「これはブック・オフ売却用」と選別することが不可欠になってきたことにも一因があります。毎度毎度、あれだけの値段で買い叩かれて、それがあの値段で店頭で売られているのを見ると、つくづく腹が立ってきて、つれあいに喧嘩をふっかけてしまうのです。

「一度読んだらすぐ売るような屑本は、文庫かブック・オフで買ってよ！ いくら共働きで経済的余裕があるからって、あなたは本を買いすぎよ」「僕だけが読む本を屑本と決めつけないでほしいね。だいたい、そういうあんたが、僕に『ねえねえ、なんか読む本ない？』って、供給をもとめてくるんでしょうが！」

もうひとつには、前よりも心理的キャパシティが小さくなって、「外れ」の本を読むとた  
まらなく腹がたつようになったことにも一因があります。「貴重な私の時間を返してく  
れ!」「なんで、こんなのに惹かれちゃったんだろう?!」という想いが強くなっているの  
です。で、つれあいを「リトマス試験紙」代わりにしているのかな?

閑話休題。ところで、この本は「これ、もの凄い本だよ。『あごら札幌』の書評の題材  
にもなりそうだよ」とつれあいが推奨した本です。著者がカミング・アウトしているレズ  
ビアンである、という背景にまず強く惹かれるものがありました。それと、以前に著者が  
書いていた旅行記(確か「熱帯感傷紀行」という文庫本)の解説に「このひとは、自分の  
命を削って本を書いているのでは、という気がする。彼女の作品を読むと、血が吹き出で  
くるようだ」といった意味のことが書いてあったのが妙に心にひっかかっていたもあり  
ます。

そして、実際に読んでみて……。本当にそうでした。「恋愛」というものが、こん  
なにもエロティックで、純粹で、しかもドロドロした情念に満ち満ちていたことを私は忘  
れていたような気がします。モデルがいるのか、いないのか、もう、そんな次元はすつと  
んでしまっている小説です。波乱万丈のストーリーが、当事者3人のそれぞれの視点から  
描かれた短編小説3つで大きな絵になる、というこの連作小説を読んで、中山可穂とい  
う作家に興味をいだいた方は、ぜひとも「花伽藍」(新潮社)も読んでみてください。この  
短編小説集も私は大好きですが、なかでも『燦雨』には圧倒されつくしました。こんな2  
8年間をともにしたカップルがいたなんて……。私には、彼女が創造した「伊都子」

「ゆき乃」のカップルが、私の近所に住んでいたような気がしてなりません。現在の私の  
両親が、このカップルのようにまさに「老老介護」の状態でヘルパーさんに支えられてい  
るという現実が、あまりにリアルな描写とともにそう感じさせたのかもしれませんが。ぜ  
ひ、ご一読ください。



(小松ともみ)

## ナ マ ス テ Part V 高橋芳恵

ガントクへの乗合ジープは1時間遅れで乗客4名でダージリンを出発。川に沿って下っていく。顔つきは似たり寄ったりなのに、ガントク入領にパーミットが必要なのは私1人。憧れのガントクは天気が悪くせつかくのカンチェンジュンガが見えない。1泊して、カリンボンへ下る。ダージリンより1000mくらい低いので暖かい。着いたバススタンドでブータン人を見かける。例のドテラのような国民服を着ている。国境が近いのだ。着いた時間が早いので落ちついて宿探しでき、2件目の宿に決めた。宿の人も親切で、ここでしっかり風邪を直そうと思った。山の中腹にあるこの宿からはカンチェンジュンガは見えないが、屋上から町並みがよく見え、星もきれいだ。毎日カンチェンジュンガを見ようと足の向くまま気の向くままに街を歩き回った。

ある日、ランチに入ったレストランで白人系の男が話しかけてきた。彼はフランス人によくしゃべる！ 地元の女性と結婚したいのに宗教が違うから結婚できない、とぼやいていた。長居するのにホテルは高いから部屋を借りている、という。「カンチェンジュンガを見るのが好き」という私を「是非ボクの家へ来てくれ、眺めがいいよ」と誘ってくれる。はっきり断わっても、何故断わるのかとしつこく聞いてくる。悪い人のは見えないが「日本人の女は初めて会った人の家には行かない」と言うと、わかった、と言って去って行った。

宿の屋上から見える、街の北はずれの山の頂上の建物の明りが気になっていた。朝早く出発すれば迷っても、大丈夫だろうと出かけた。ここカリンボンは子どもがたくさんいて学校もたくさんある。いろいろな制服を着た子どもたちにあった。ナマステ、ハロー…こんにちは！ こんにちは、と声をかけてきた少女は「去年日本語の先生がいて、日本語を少し習った」と言っていた。どんどん道は狭くなり水源地のようなところへ着いた。カンチェンジュンガの山並が美しく見える。ここでコーヒーブレイク。いつも宿で熱湯をもらい、こだわりの炭焼きコーヒーを持ち歩いているのだ。あま〜いチャーイもいいけれど、私にはこのコーヒーが必需品。…貧しい身なりの2人の女の子が出てきた。学校へ行くらしい。私もついて行くことにした。人1人やっと通れるような「けものみち」に行く。1時間弱で着いたそこは廃屋のような学校だった。先生に「学校を見学させてほしい」と頼むと快く承知してくれた。10時から始まるのに10分くらいあったので、得意？の折り紙を披露した。これが大受け！「羽ばたく鳥」に黒山の人ばかり。先生が一番喜んでるみたい。10時になって朝礼が始まった。急に私を紹介し、何か話せ、という。仕事のこと、家庭のこと、旅のことなどしどろもどろで話した。先生がそれを現地の言葉に訳してくれた。先生が「羽ばたく鳥」を紹介し羽ばたかせようとして失敗。私がやって成功。大笑い。

# ひとりNGO山田征さん道内ツアー

山田さんを知るきっかけは、トイレトーパーである。かねてより、共働学舎のトイレトーパー仲間と共同購入していた。その中に入っている山田さんの通信を読み感動し、どんな方なのかと話していた。この秋、米道というニュースに入り、ツアーを組んだ。10月4日(札幌) 5日(室蘭) 6日(伊達)。1日3回という講演スケジュールも、さわやかにこなして頂いた。

えっ! 旅費も宿代もいらぬのですか?!

「心配ご無用です。グッズと共に参ります」

彼女は本を2冊出していて、その印税で活動資金の足しに。とのことであった。神戸の被災の方たちの袋物や、アジアの女性たちの手作りグッズ、等々と、心が暖かくなる数々の品々を支援のために持ち歩いているとのこと。

## トイレトーパーのお話

嬉しいことに、共働学舎のトイレトーパーを買って下さる人が、木のまわりにも多くなっている。はじめは障がいのある人たちの授産施設を支えようというところから始めたのであるが、問題はもっともっと深いところにあった。

経済最優先の日本は、大手から安い海外の木をどんどん切り倒し、バージンハイル70を年間契約で買いつける。日本中の企業や、商店、家庭から湧き出る古紙を再生するよりも、海外の木を切って作るトイレトーパーの方がはるかに安い。古紙業者は次々につぶれ、再利用に最も適した古新聞は、行政から多額の税金を使って、たか火売っている。

共働学舎のトイレトーパーは、漂白したり、やわらかくするたの化学薬品を一切使っていない。大手の安い紙は、白くてやわらかい。化学薬品にどうぶり汚染されている。それでもいいという人も多い。共働学舎のは、

「120℃の高熱で通すから、下手なバージンハイル70よりも清潔です」とのこと。

木からトイレトーパーを買ってくれる人は、山田征さんも、共働学舎の人々、双葉製紙の人たちともつながっている。長い目で見れば、大手のより、ずっと安く、地球にやさしく、アジアの人々や、アマゾンの人々、生活を、日本のトイレトーパーのために追いやられている人々に答えている。



山田さんは、ピレニアの通貨破綻の話をした。日本をよかてピレニア国家へ!

アジアに行くと目玉とリムカハの子とせや、内訳の子と子と路上にいるとの子と。金持の国の子と目玉と心臓の子といるのか?

## やはり、割り箸は悪玉でした!

めったに外食をしないので、割り箸とは縁がない。今回、征さんの話を聞いて考えてしまった。アジアの中で割り箸民族は、日本だけだと言う。間伐材の利用と変わら、そんなに悪くはないかと思っていたが、事実はひどいものであった。割り箸のほとんどは中国から入り、91.1%を占めるという。日本の緑比率は70%。中国は12%、イタリヤ、ヨルダン、エチオピアは、4%~2%という。割り箸のために、海外の緑が減って行くのである。さう、神戸の人たちが作った素敵な箸袋を、征さんグッズから購入した。

## はじめは、学校給食の食料運び

征さんは、子どもに安心、安全なものをと17年間、給食の食料を運ぶ運搬を続けた。食料の運搬を通して、世界へどんどんつながり、石垣の空港に抱わり、アジアの支援、イタリヤ、ベトナム、モンゴル、ロシア、北朝鮮、アフガンと届かぬところ知らず……。日本のシイカ計画(ODA)から出資して作られたという、バタンガスリ川サンタクララ港にも……。そして、神戸の支援、ホーリスの人たちの支援と……。しかし、彼女は、とつと、さの静かで、淡々と、このすごい事をやっているのである。とつと、この書き切れない。現代書館発行「山田さんのひび NGO」1800円を購入して、彼女の活動を支えて下さい。

## 憲法出前コンサートは「傾調」です

上野さんの朗読と谷のヒップというコラボレーション憲法学会は、3回の出前を重ね、10月19日はサントピア(24条)ホールで1時から800人ほどの人々の前で公開(?)となった。(無料)。今回の読み手は女性史研究家の野村香子さん。11月は黒松内町のブナ森を守る会の人たちと共演。喜茂別町の小学校の先生渡辺さんは、男性で、育休を取っていて、彼が、朗読劇のシナリオを書き上げた。上野さんと二人で演じ、谷のヒップをつけることになった。10月19日の札幌公演では、コスタリカのコーヒーを飲んでもらって、改訂させない憲法九条と大勢の人と語り合う! 10月6日の伊達の山田征さんの講演会では、木村らの会も前座として、憲法朗読(池澤真樹さん)と、アフガニスタンの絵本「ぼくの村は世界一美しい村とヒップ」が朗読された。どんどん悪くなる日本の政治! 出来ることからスタートしたい! (谷 百合子)

## 年金制度をどうしたいですか？

K. S

足が不自由になってからタクシーに乗せていただくことが多くなりました。昨日も「秋晴れのよい天気ですね」というと運転手さん曰く「特異日だからね。」そうです。10月10日は旧“体育の日”なのです。国民の祝日に関する法律が改正され、10月の第2月曜日(今年は13日)と変わりましたが、昔から統計的に言っても晴れることの多い日なのです。運転手さんの話はまだ続きがあり、「でも東京オリンピックの日は大雪だったからね。今年はまだだけど、大体このあたりで冬タイヤに換えるのさ。」(ちなみにオリンピックは昭和39年10月10日から24日まで開催され、小学生だった私もテレビで観戦した憶えがあります。)さすがに平地にはまだ雪が降らないものの、いつの間にかすっかり秋の気配が深まった大安の昨日はまた衆院が解散された日でもあり、28日告示11月9日投票という総選挙一色になった観のある日でありました。

さて、来年の財政再計算(5年に一度年金制度の見直しを行うこと)を控え、年金制度は選挙の大きな争点となってきました。前回1999年の改正では、保険料率の逡増スケジュールの一時停止、給付の5%適正化、支給開始年齢の引き上げ、被保険者資格の延長等が決まり順次実行されてきています。そのような状況における今年7月の「国民年金未納4割」という発表資料は衝撃的でしたし、危機感を募らせるものでした。正確には2002年度の国民年金(基礎年金第1号被保険者)の未納(未加入者、未納者、免除者の合計)率が37.2%であり、特に若年層で上昇していることや前年度よりも8.1ポイントも増加したことが報じられました。これは、2002年度から国民年金保険料の徴収窓口を市町村から社会保険事務所等に変更されたことと半額免除制度の新設に伴う全額免除の厳格化という要因があるとはいえ、その背景には公的年金制度への不信感があり、将来に対する不安が社会全体に広がってきたといえましょう。各種世論調査でも20~30代の約7割が年金制度を信頼していないと答えており、若年層の不公平感が強まっています。また、未納率には免除者等の払えない人と(払おうと思えば払えるけれども)払わない人が計上されており、20歳台の高い未納率(20歳代前半52.6%、20歳代後半50.6%)は、失業者やパート、アルバイト、派遣、期間雇用者等の非正規労働者の多さがうかがえます。

実は、私も今年4月から国民年金保険料を納付していません。月額13,300円を払う余地はないからです。社会保険庁は「国民年金特別対策本部」を8月1日付けで設置し、今後5年で未納率を20%に下げることが目標に資産の差し押さえ等を行う予定との報道は知っていましたが、先週の土曜日社会保険事務所からと名乗る男性の訪問を受けたときはびっくりしました。インターホンで、収入が少なく貯金も底をついて本当は払いたいけれど国民年金保険料を支払う余裕がないという説明をしました

が、うまく伝わったかどうか……。免除申請をしないのですかとの質問には、「家賃収入があり免除の金額を超えるため申請できないのですが、国民生活金融公庫からの借入金の支払いで家賃収入は消えてしまい、年金に回せません。」といい訳しました。しかし、自分の趣味で行っている大学の授業料(夜間なので昼間学生の半額)は国民年金の年額の3倍以上であり、「あなたが納付しないことで他の被保険者に迷惑をかけている」といわれれば、返す言葉はありません。(実際はそこまでいわれませんでしたけれど。)もっと収入を増やす道を探ればいいのですが、意欲も能力もなく「ウエストのくびれも男も金もない」状況では「時効(2年)がくるまでには納付します」とはとも確約できませんでした。私の年金はどうなるのでしょうか？

話を元に戻します。年金改革は先送りできない状況にあり、選挙を通して国民がどんな選択をするのかに興味があります。政府が発表している2004年改正の内容としては、基礎年金の国庫負担割合を1/2に増額する、厚生年金の保険料固定(20%前後)方式の採用、夫婦間の年金権分割案、短時間労働者等への厚生年金の適用拡大等が挙げられますが、国庫負担ひとつとっても消費税を上げないという条件下では財源が見当たらず、保険料固定は問題の先送りであり、パートの社会保険適用は流通・サービス業の反対が大きく、当のパートからは負担増の押し付けとの声があがるなど、反対が少ないのは夫婦間の年金権分割くらいでしょうか。折りしも財務省からは現在の受給者も含めた給付カットや67歳受給案が提案されるなど厚生労働省との対立の構図も見えてきました。厚生労働省案が毛鉤とはいいいませんが、問題の先送りと負担増の繰り返しを経験してきた国民各層には、厳しくてもより現実的な提案を受け入れる素地ができていないかと思えます。

個人的には、第1号被保険者であるパートの私としましては、現厚労省案でいえば社会保険の適用は一応ありがたいのですが、経営バランスを考えると「適用にならず失業」ということも大いにあるのではないかと恐れております。

なお、抜本的な改革という点でいえば、厚生年金の民営移行などというドラスティックな展開もあり得るとはいえ、財務省案のスウェーデン方式がよいのではないかと考えています。一律税負担ではなく、税金は一定所得以下の層にのみ投入し、全国民から所得に応じた負担をってもらうという制度で、これだと所得の把握は国税局が行い、社会保険庁の職員が行っている仕事はかなり縮小(少なくとも徴収はなくなる)しますが、私が最も大切だと考える「現役世代の納得を得られる持続可能な年金制度」に近くなることと思えます。(しかし、給付はカットされ私は今以上に貧しい年金生活しか描けなくなりますが……。)

おじさん週刊誌が売れるのは袋とじのヌードのせいばかりではなく、年金の特集が目玉になっています。テレビや雑誌も含め国民は年金をしっかりと学習していますので、目の肥えた観客をうならせる説得力ある制度を提案できなければ、どの党も総選挙を戦うことはできないでしょう。あなたはあなたの年金をどうしたいのですか？

# INFORMATION

★ 〈性教協いしかりサークル学習会〉

10月18日(土) 13:30~15:30

「蔓延する性感染症を予防しよう」

講師：丸山 俊蔵さん(いしかりサークル代表 元産婦人科医)

場所：札幌エルプラザ 男女共同参画センター 第3研修室

(札幌市北区北8条西3丁目 TEL 011-728-1222)

参加費：500円

連絡先：森長 (Tel & Fax : 011-763-5940 夜間のみ)

★ 〈さっぽろ自由学校「遊」〉

【連続講座】

「司法制度改革ってなに？」

第2回「弁護人の役割」

10月21日(火) 18:30~20:30

講師：笹森 学さん(弁護士 北海学園大学、藤女子大学非常勤講師)

場所：さっぽろ自由学校「遊」(札幌市中央区南1西5愛生館ビル2F)

受講料：単発1,500円(会員・学生1,000円) 通し6,000円(会員・学生4,800円)

【公開講演会】

「吉岡忍が語る～不透明な時代を見る視点」

10月25日(土) 18:00開場 18:30開演

場所：札幌市男女共同参画センター 大研修室(札幌エルプラザ内)

前売：800円 当日：1,000円

申込み・問合せ：さっぽろ自由学校「遊」TEL 011-252-6752

11月1日(土) 18:30~

「戦争のための法律がまだまだ作られる！～有事関連法って何？」

講師：竹中 雅史 弁護士

場所：かでの2・7 特別研修室(札幌市中央区北2西7)

参加費：500円

主催：さっぽろピースアクション実行委員会

連絡先：さっぽろ自由学校「遊」TEL 011-252-6752

戦争なんて認めない！市民運動大集会Tel & Fax 011-573-1575

★平和憲法を守る第17回札幌民衆史講座

11月3日(月) 14:00~17:00

「日本国憲法と40年の弁護活動から」

第1部：人権擁護の闘い 第2部：平和を守り、つくる闘い

講師：廣谷 陸男さん(弁護士：元自由法曹団北海道支部長)

場所：札幌市教育文化会館 講堂(中央区大通西13)

資料代：1,000円

主催：札幌郷土を掘る会